

「歴史的環境保全のまちづくりを学ぶ」

担当教員 根崎光男

コース概要

日程 2019年9月4日～7日

場所 東京都中央区、神奈川県箱根町、静岡県三島市

参加人数 21名

コースのねらい

先人の営みや文化が刻まれた文化財や文化的景観などは、有限の歴史資源ですが、現代社会の利便性や効率性の追求、そして人々の生活様式の変化によって、その保全が難しくなり、その維持さえ困難になりつつあります。

そこで、本コースでは当該地域に残る史跡や建造物、文化的景観などの歴史的環境を保全・活用していくための取り組みとその課題を学び、それらがまちづくりに果たす役割を考えることを目的としています。

内容

本コースは、日帰りコースと2泊3日の宿泊コースから成り立っています。前者は東京湾に面して徳川将軍家の別荘から天皇家の離宮となった浜離宮恩賜庭園、後者は旧東海道に位置づく小田原城、箱根関所、旧街道石畳・杉並木・一里塚、三島大社を訪ね、その保全の実情を見てきました。いずれも、国内有数の観光地であり、かつ歴史資源の活用とまちづくりの取り組みとを学べる恰好の地域でもあります。それらの現場に行って、直接、担当者の方からその現状と課題について話をうかがうことで、今後の学習に役立てられるように配慮しています。



写真1 旧東海道石畳の中間地点でホッと一息



写真2 浜離宮恩賜庭園の説明を聞く



写真 3 浜離宮恩賜庭園の御亭山に登る



写真 4 箱根町役場で講義を受ける



写真 5 急峻な旧東海道石畳を歩く



写真 6 箱根関所の説明を聞く

学習を終えて

私が今回の箱根 FS に参加して考えたことは、自治体による文化的景観の保全が活用と表裏一体であるということでした。文化財や文化的景観を保存・保全していくためには、資金が必要です。そのためには、観光客を呼び込むための文化財・文化的景観を活用した政策を推進していく必要がありますが、まず誘致のための資金が必要であり、保全に回す資金との間でバランスを考える必要があります。保全と活用にそれぞれどれだけの資金を回すのか、その調整をすることが自治体のとても大事な仕事だと思いました。箱根町の担当職員のお話を聞くことで、このことがより理解できたと思います。未来に日本文化を残していくためにも、この問題について考えていきたいと思いました。(3年 河合 亮)

今回は実際に箱根町の石畳や杉並木を歩きました。普段の観光ではそう簡単に「行こう」とはならない場所に足を踏み入れ、「文化財の保全は同じ道路でも、その場所によって管理する人が違い、それにより現状に差がある」というお話を聞くだけでは、何となく察することしか出来ない事も、実際に訪れてみて、どの位の差があるのか、どの様に違っているのかを具体的に把握し考えることができました。また、じっくりお話を伺う事が難しい職員の方に講義をしていただいたり、滅多に入れない関所の建物の奥に通していただけた事は、歴史が好きな私にとって心躍る体験となりました。(2年 松下ことみ)